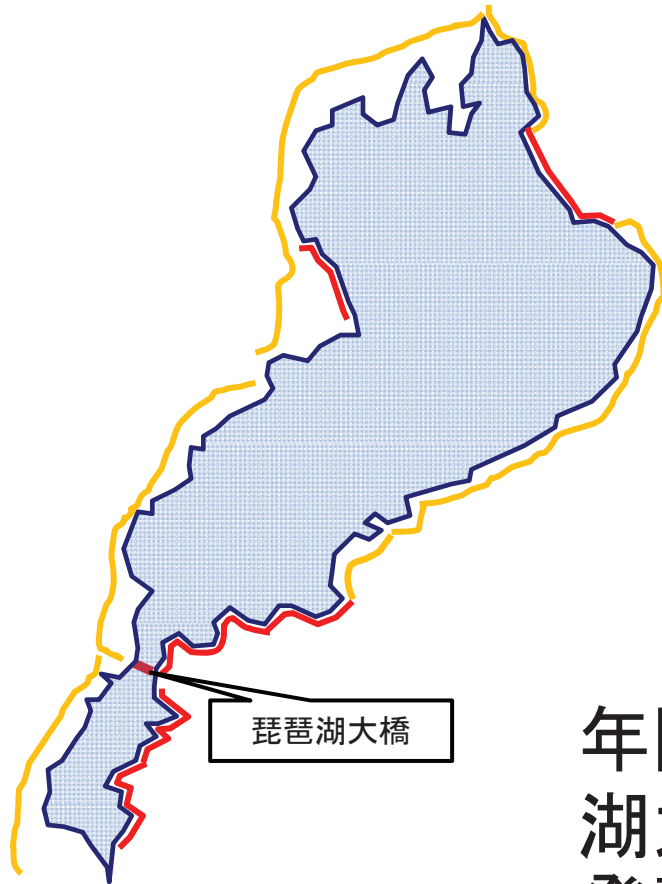


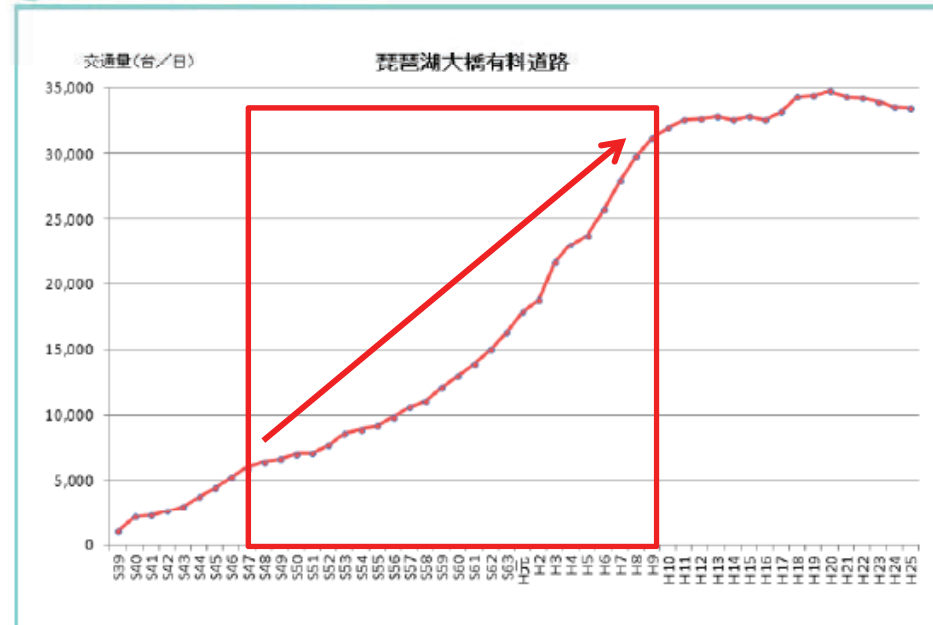
整備された湖周道路により物流効果・交通量の渋滞緩和



凡例

- : 湖岸堤・管理用道路
- : 湖周道路

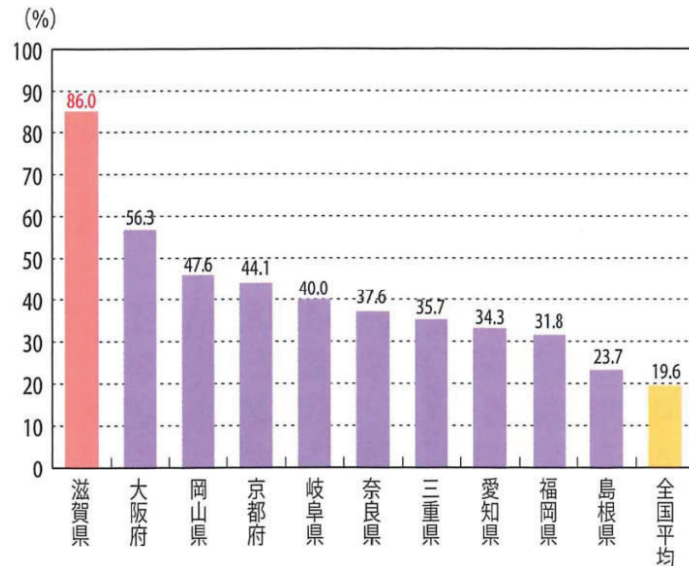
交通量の推移(1日当たり交通量)



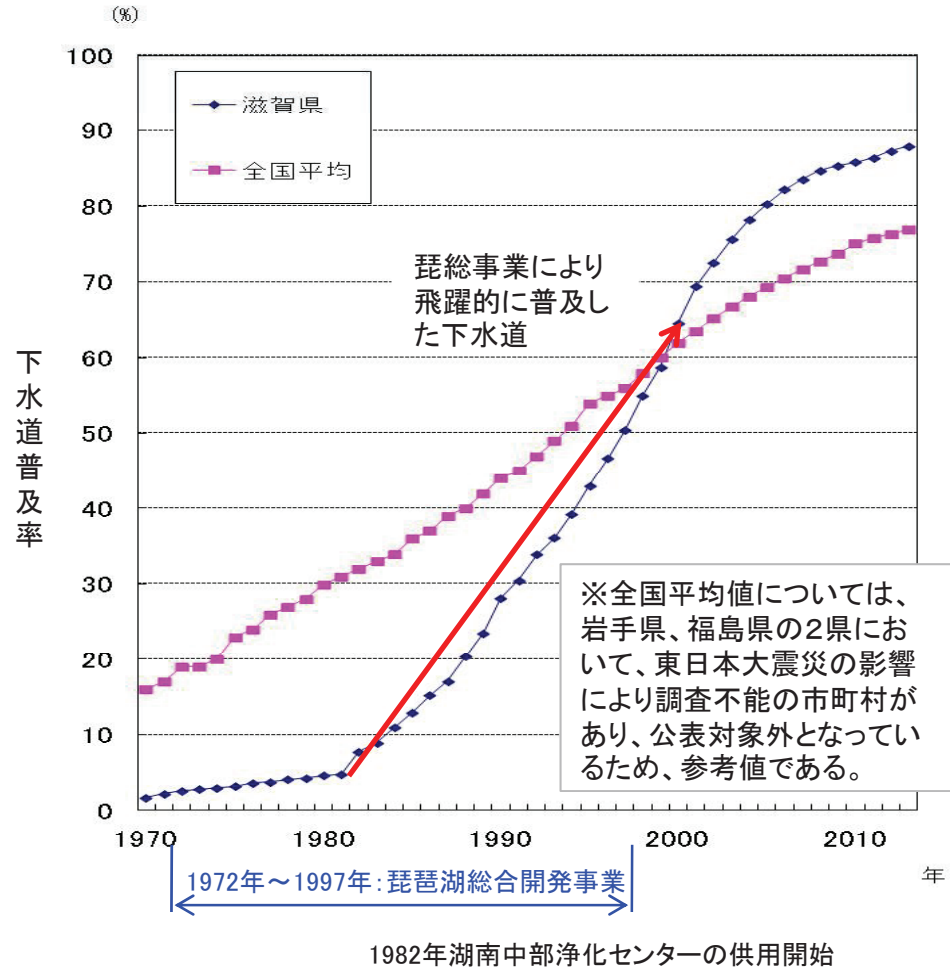
年間約1,300万台の交通量がある琵琶湖大橋、この交通量を琵琶湖総合開発事業により整備された湖周道路などを利用し、東西南北の物資の輸送に貢献、また、増加する交通量の渋滞緩和。

琵琶湖総合開発事業によって整備された下水道 (下水高度処理人口普及率全国1位)

- 琵琶湖総合事業開始時(1972年)の滋賀県の下水道普及率は、約2.6%
- 平成26年(2014年)時点の滋賀県の下水道普及率は、約88%(全国7位:全国平均約76%)。
- 滋賀県の下水道高度処理人口普及率は、平成23年度末現在で、日本一となっている。



高度処理人口普及率ランキング (平成23年度末)

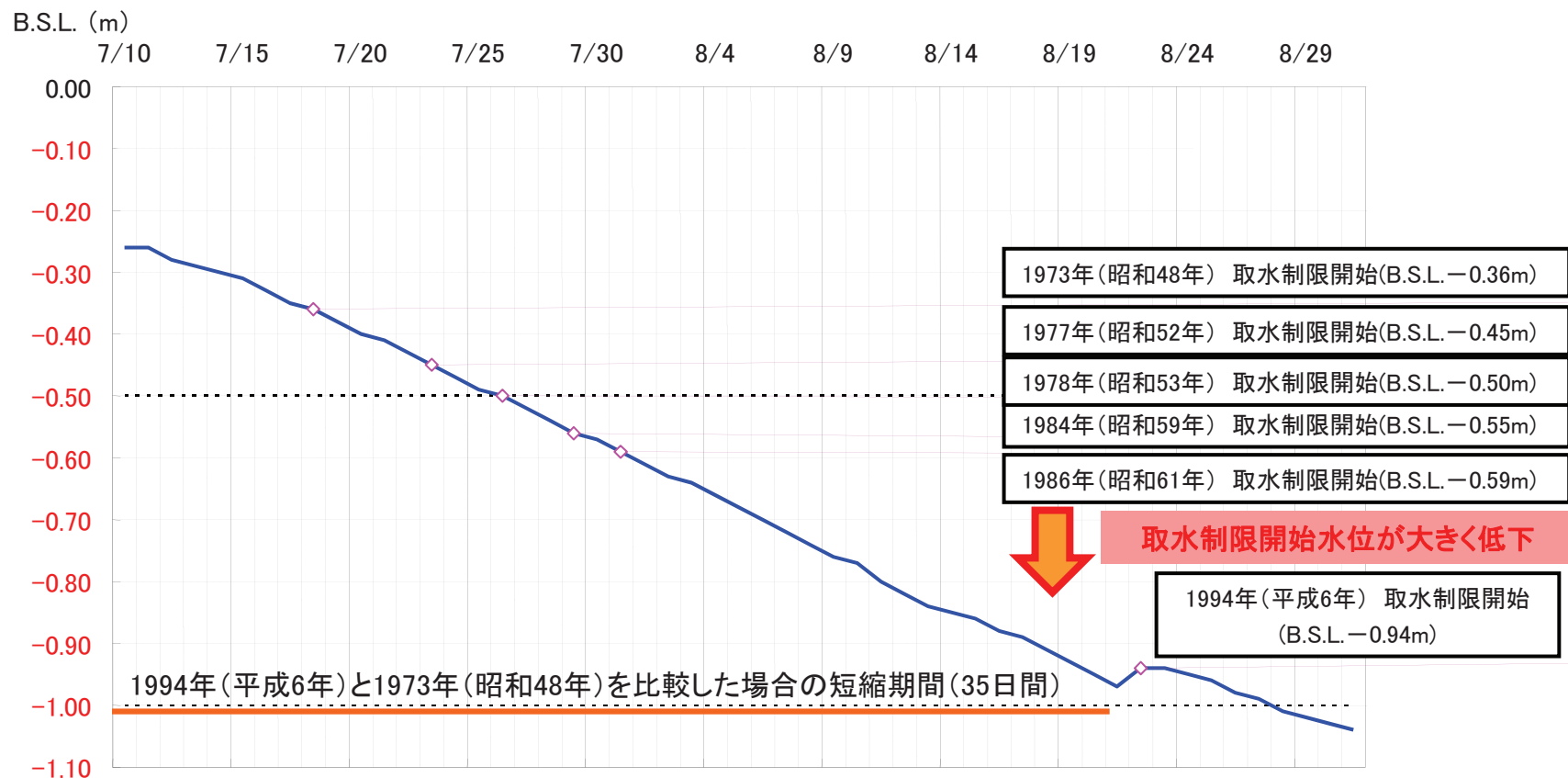


出典: 下水道普及率(「滋賀の下水道」)

取水制限の軽減効果 (京阪神の生活を支える琵琶湖開発)

1994年(平成6年)の取水制限開始水位は、琵琶湖開発事業前の渇水年(昭和48,52,53,59,61年)に比べてかなり低くなってきている。そのため、京阪神の生活に大きく貢献。

過去の渇水年の取水制限開始時期の琵琶湖水位と平成6年の琵琶湖水位の比較
(湖水位を1994年(平成6年)の水位変動にあてはめたもの)



湖岸堤・管理用道路の供用により工業用地の開発・企業立地が促進
(滋賀県長浜市川道町)

